

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970800413		
法人名	医療法人社団 星野会		
事業所名	グループホーム まゆ 1棟		
所在地	小山市犬塚88番地1		
自己評価作成日	平成 26年 12月 30日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・常に利用者を尊重し、本人本位で自由である。 ・家庭的な雰囲気の中で、明るく、ゆったりと過ごして頂き、楽しく生活している。 ・職員はやさしさをモットーに優しく、思いやりがある。又、家族、利用者ときちんと向き合っている。 ・質の向上に研修、勉強会に取り組んでいる。 ・敷地内に、協力医療機関があり、安心である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成12年に県内第1号のグループホームに指定され、続いて2・3棟も開設した計3ユニットの事業所であり今年で15年を迎える。近くには、幹線道路や、大型ショッピングセンター、飲食店、ニュータウンや工場があり利便性に恵まれている。同法人の介護老人保健施設やクリニック、歯科医院等が隣接しており、災害時等における連携や身体状況の変化時の緊急連絡体制が整っている。利用者や家族は敷地内に協力医がいることで、安心して生活している。事業所では利用者に対する接遇面に力を入れており、利用者それぞれの役割を持って家庭的な環境のもとで生活できるように、管理者・職員全員が利用者一人ひとりに寄り添い、傾聴し、やさしい心のケアを心がけている。また、内部・外部研修会にも積極的に参加しているほか、医師による内部研修会を開催し、職員の資質の向上を図っている。地域との交流にも力を入れており、地域活動への参加や、地域で活躍しているボランティアも多く受け入れている。毎月行われるボランティア訪問時のお茶と季節のお菓子が利用者の楽しみの一つとなっている。利用者・家族の希望で、終の棲家であるグループホームでの看取りもあり、利用者の方たちとお見送りをしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、家庭的な雰囲気、その人らしく安心して生活が送れるようにしている。	各ユニットのステーションに法人理念のほか、目標としている「利用者・家族と向き合う、やさしさ」を掲示している。管理者は常に職員に対して支援態度や言葉かけに注意し、職員と共に日々のサービス場面で理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	桜祭り。授産施設のイベント参加又は、その家族と関わりがある。	自治会に加入し、地域で開催される桜祭りに模擬店を出すなど、地域との相互交流に取り組んでいる。また幼稚園児や学生ボランティアとの交流も積極的に行われている。さらに地域住民に認知症の理解を深めてもらう勉強会の講師役を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で話し合い、高齢者の暮らしに役立つことはないか、意識を持って取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開き、サービス向上に活かしていけるよう努力している。	会議は、家族代表・民生委員・地域代表・市や包括支援センター職員の参加のほか、議題内容に応じて警察・消防署が参加し、2ヶ月ごとに開催している。出された意見をサービス向上に活かしている。参加者には食事を提供し、日頃の利用者の様子を見てもらい理解につなげている。家族会開催日に運営推進会議を行い、大勢の参加があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とは連絡をとり、理解や支援、疑問点など考え方や実態を話し合い課題解決を図っている。又協力関係を築いている。	市担当者には、運営推進会議の参加時に利用者の暮らしぶりを把握してもらっている。日頃から市の窓口に出向いたり電話をするなど、情報交換や介護保険制度の相談などを行っており、オレンジプランにも登録され、市との連携と情報の共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由で安全な暮らしをする為に工夫し、身体拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を定期的に開催し、拘束の対象となる行為の理解や防止策、言葉使いや支援態度について周知に努め身体拘束の無い支援に取り組んでいる。ケア内容や言葉使いが適切であったか、その都度注意しあっている。日中の玄関は施錠せず見守りにより対応し、徘徊傾向の利用者は、事前に交番に情報提供するなどの配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、委員会での話し合いを持ち、虐待防止に努めている。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人、家族に説明をした上で契約をし、利用して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情、要望記入の用紙を用意し対応している。	家族の訪問時等に職員が積極的に話しかけ要望や意見を伺っている。また、年2回の家族会開催の際にアンケートを実施し、意見や要望を聞いている。出された意見や要望等は職員間で協議し、できる限り応えていく方針で取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、カンファレンス、申し送りで働く意欲の向上や質の確保に繋げている。	職員は、毎日の申し送りや月1回のホーム会議、週1回のカンファレンス等で、管理者に対し気軽に提案や意見を表している。食材の提案や環境整備など職員からの意見や提案が反映されている。管理者は、年1回の面談の機会のほか、日常的にコミュニケーションを図るよう心がけ、職員の質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップの為、准看護学校への推薦、各資格取得の為のバックアップを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会を行い、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設訪問をし、勉強会をしてサービス向上に努めている。 H26.3市開催による同業者との交流勉強会を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えに耳を傾け、安心して生活が出来るように信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との関係作り同様に、家族の気持ち、不安に思っている事を受け入れられる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援、サービスが利用できるように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が安心でき、共に過ごす時間を増やして良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に処遇開示を行い、談話の時間をとり、支えていけるような関係を気付いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	公衆電話、手紙、外出などで関係が途切れないように努めている。	利用者は、近くのショッピングセンターに菓子を買に行ったり、馴染みの床屋等に行っている。また友人が来て、カラオケや外食に誘ってくれたり、通所介護事業所に通っている方が会いに来てくれるなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。また利用者が年賀状を出す支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにソファ、テレビがあり、利用者同士自由に交流を深めている。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の住み替えが必要となった場合には情報提供し、継続的に配慮してもらうよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人生活スタイルを大切に、本人の希望を傾聴し話し合って検討している。	職員は、利用者のそばに寄り添い、傾聴する姿勢で思いや意向の把握に努めている。食べたい物やその日の過ごし方など聞き、きめ細かく支援している。洗濯好きな人や編み物が得意な方など、今までの生活習慣を尊重しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等となじみの関係を築きながら、楽しく生活が送れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を処遇に記録し申し送りカンファレンスで把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のカンファレンスで話し合い、介護計画の見直しに活かしている。	利用者の身体状況や本人、家族の意向、医療関係者からの情報をもとに、週1回のカンファレンスにて、職員や計画作成者・ケアマネジャーと相談し介護計画を作成している。モニタリングは6ヶ月から1年としてるが、状態等が変化した場合は随時見直しを行っている。看取りの場合は関係者と話し合っている。	看取りの場合は関係者と話し合っているが、日常の介護計画は職員が中心となっており、今後、利用者・家族、医療関係者など、必要な関係者を交えた担当者会議が開催され、利用者がより良く暮らすための取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、変化等個々の処遇に記録している。 カンファレンスで話し合い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて柔軟な支援を出来るように取り組んでいる。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の人や場を借りて安全に生活ができる様に努めている。 地域包括支援センター、クリニック、スーパー等。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックがあり、月1回の定期受診適切な医療が受けられている。	協力医である法人のクリニックが主治医となっている方が多く、月1回、医師の往診がある。病状によっては受診する事もある。歯科は職員が同行し、他科受診は、家族に依頼しているが、職員が同行する事もあり普段の様子を伝えている。医療機関や家族とは、受診結果や処方薬等の情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは情報を共有し、適切な対応をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重症化した場合における対応に係る指針』が作られており、医師の指示を受けて取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について「重度化した場合における指針」に基づいて、利用者・家族と早い段階で話し合い、方針を共有している。看取りにおいては家族の協力を得ながら、医師、看護師、職員の連携のもと、今年度は6名の利用者の看取りがあり、利用者全員で最後のお別れをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等、勉強会、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、消防署には日頃から協力を得られるよう働きかけを行っている。	年2回消防署立会いの元、消防訓練を実施している。年1回は敷地内の介護老人保健施設と合同で訓練を行い、協力体制も構築されている。今年度は実際に夜間に訓練を行う予定となっている。オール電化のためコンセント等のこまめな掃除の他、非常災害時に備えた飲料水や食料品の備蓄も行われている。	災害時に備え、事業所だけでの避難誘導の限界を踏まえ、地域の人々の協力を得るため、訓練日を運営推進会議の日にあてるなど、地域の方が協力や参加しやすい取り組みや検討を期待したい。

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、人生の先輩である事を忘れず、馴れ合いにならないようにする。	利用者に対して常に尊厳をもって接しており、声かけは「さん」付けとし、優しく話しかけることを基本としている。排泄や入浴時の声かけや介助の際にもさりげなく行い、誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人情報記載された書類は事務所内に適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見をよく聞き、納得して生活できる様に上手な声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、「待つ、見守る」ケアを目標にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好み希望に応じた身だしなみ、オシャレが出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みや摂取量を把握し、職員と一緒に楽しく食事が出来るように努めている。	献立は法人の管理栄養士が作成し管理者が確認して決めており、各ユニットごとに利用者と職員で調理をしている。利用者はごぼうやにんじんの皮むきをするなど一緒に準備や片付けを行っている。職員と一緒に同じテーブルで会話をしながら食事を楽しんでいる。出前や外食、もちつき・クリスマス・祭りの時のイベント食も楽しみごとになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を記録し、体重の増減、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った口腔ケアを行っている。		

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	チェック表で排泄のタイミングを把握し、利用者の自尊心に配慮した排泄支援をしている。自宅では紙パンツであった方も布パンツに改善されたり、排泄が自立し、自宅での生活が可能になった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行い、適度な運動、外気浴をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間を決めていますが、その日の体調希望に合わせて入浴できるように支援している。	入浴は週2回としているが、希望する利用者には希望の時間で毎日でも可能となっており、職員3名で入浴の支援をしている。入浴に拒否傾向のある方には無理強いすることなく、声かけや対応を工夫している。その日の気分で檜風呂入浴を楽しむ方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活の過ごし方を工夫し安心して休息、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に服薬できるように、チェックを行い、誤薬のないよう必ず確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や得意分野を活かして、お茶入れやテーブル拭き、布巾縫いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を確認しながら散歩、買い物、外食を行っている。	日常的に法人の敷地内を散歩し、戸外に出る機会を多く作っている。近くの大型ショッピングセンターで買い物や食事をしたり、外食先で家族と合流し一緒に食事をすることもある。毎朝、筋力アップを兼ねた足のマッサージを行っており、外出意欲も湧き喜ばれている。	

グループホームまゆ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。 本人管理が難しい方には職員が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり、いつでもかけられるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはテレビ、ソファがあり、利用者間の交流もあり自由で楽しく過ごしている。季節の花、作品を飾って、季節を感じる事ができる。(十五夜、クリスマス等)	室内は明るく落ち着いた色彩で室温も適度に調整されている。広々としたリビングには、利用者の手作りの折り紙や塗り絵、俳句が飾られており、生活感や季節感を出している。換気は朝・昼・晩に行い、トイレのパットはすぐに処理するなど臭いに気を配り、掃除は出来る利用者と共に職員が毎日行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールはソファ、中庭にはベンチ、テーブルがあり、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ってきて頂き、居心地良く過ごせるよう支援している。	6畳の居室にはベッド、衣装ケース、洗面台が備え付けで、毛布、テレビ、椅子、タンスなどは使い慣れた家具類が持ち込まれている。手工芸作品や家族の写真などが掲示され、居心地よく過ごせるように支援している。衣替えは家族にも協力してもらい利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室などに手すりが設置しており、安心、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		